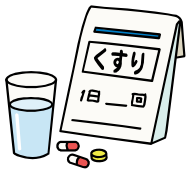
薬　局　新　聞　　2010年12月
ファーマライズ薬局

小児の風邪・インフルエンザによる発熱

風邪やインフルエンザによる発熱は、細菌やウイルスを倒すための身体の防御システムです。熱が上がることによって、細菌やウイルスと戦うリンパ球や白血球の働きが活発になるからです。ですので、むやみに熱を下げればよいというものではありません。また、小さなお子さまでは、平熱が37．5度くらいの場合も少なくありません。普段から体温を測り、平熱を知っておきましょう。

＜解熱剤を使うか、使わないか？＞

- 一般的に、38．5度以下の熱であれば、元気があり食欲もあれば、熱を下げる薬を使わずに、しばらく様子をみて下さい（あくまで目安です）。
- ただし、熱は38．5℃以下であっても、ぐったりし、吐き気や下痢などがひどく水分も取れない状態では、熱を下げて体力の消耗を軽くすることも必要となってきます。
- 判断に迷った時は、医師・薬剤師にご相談ください。



＜解熱に使われる薬＞

一般名	商品名	効果
アセトアミノフェン	ピリナジン末、カロナール細粒・錠・シロップ、アンヒバ坐剤、アルピニー坐剤など	効果は服用・使用後30分～1 時間で発現し、6時間ほど続く。

1 回服用・使用したら、熱が下がらなくても続けて使用せず、最低でも4～6時間間隔を開けて使うようにしましょう。服用・使用する量は、年齢・体重によって変わります。医師から言われた量を守りましょう。

また、「アスピリン」や「ボルタレン（ジクロフェナクナトリウム）」「ポンタール（メフェナム酸）」は、お子さまのインフルエンザには使用されません。これらの薬はライ症候群やインフルエンザ脳症の発症との関連があると言われているためです。大人の薬や、他のきょうだいの薬を飲んだり、使ったりすることはやめましょう。

お子様の状態を見守ってください　・・・　病院を受診するポイント　・・・

- □ 手足を突っ張る、がくがくする、眼が上を向くなど、けいれんの症状がある。
- □ ぼんやりしていて視線が合わない、呼びかけに答えない、眠ってばかりいるなど、意識障害の症状がある。
- □ 意味不明なことを言う、走り回るなど、いつもと違う異常な言動がある。
- □ 顔色が悪い（土気色、青白い）。唇が紫色をしている（チアノーゼ）。
- □ 呼吸が速く（1 分間に60 回以上）、息苦しそうにしている。
- □ ゼーゼーする、肩で呼吸をする、全身を使って呼吸をするといった症状がある。
- □ 「呼吸が苦しい」、「胸が痛い」と訴える。
- □ 水分が取れず、半日以上おしっこが出ていない。
- □ 嘔吐や下痢が頻回にみられる。
- □ 元気がなく、ぐったりしている。

「新型インフルエンザ症状チェックポイント」（厚生労働省、日本小児科学会作成）

- 機嫌が悪かったり、いつもと何か様子が違うと感じたら、病院を受診しましょう。
- 生後6ヶ月未満、とくに生後3ヶ月未満の発熱は、すぐに受診しましょう。
- お子さまは、熱や下痢で脱水を起こしやすいものです。好きな飲み物で水分の補給をしてください。
- 氷枕、氷のう、冷えたタオル、冷却剤などで、頭や脇の下や首筋など、太い動脈が走っているところを冷やすと効果的です（お子さまが嫌がるなら、無理に冷やす必要はありません）。

ファーマライズグループ